

第1章 はじめに

1. 職業情報とその必要性

世の中の仕事には様々なものがあるが、これら仕事の内容を中心に類型化してまとめたものが職業と呼ばれる。通常、求職活動では、自分のしたい仕事（職業）をおおむね決めてから、具体的な求人情報にあたることになる。

職業は標準的な分類によって整理されている。これが職業分類であり、図表 1-1 に「厚生労働省編職業分類」の一部を示している。類似のものに産業分類がある。これは日本の産業が全体としてどのように構成されているかを示すものであり、図表 1-2 に「日本標準産業分類」の一部を示した。また、産業分野によっては、その中で別途の業種分類を設定しているケースもある。

図表1-1 厚生労働省編職業分類（H 生産工程の職業の中分類の一部）

49 生産設備制御・監視の職業（金属材料製造、金属加工、金属溶接・溶断）

小分類	細分類	該当例、非該当例
491 製鉄・製鋼・非鉄金属製錬設備制御・監視員	491-01 製鉄・製鋼設備制御・監視員	<p>該当例：鋳物用鉄溶融設備オペレーター、高炉オペレーター、製鋼設備オペレーター、製鉄設備オペレーター、造塊設備オペレーター、鋳鉄機オペレーター、電気炉オペレーター（製鋼）、転炉オペレーター（製鋼）、取へ精錬炉オペレーター、連続鋳造機オペレーター（製鋼）</p> <p>非該当例：圧延設備制御・監視員[499-02]、粉砕石焼結設備制御・監視員[499-99]、製鉄工[521-01]、製鋼工[521-02]、鋳物用鉄溶融工[521-03]、高炉保全工[601-04]、転炉保全工[601-04]、炉修工[712-02]</p>
	491-02 非鉄金属製錬設備制御・監視員	<p>該当例：鋳物用アルミ溶解設備オペレーター、多結晶シリコン精錬設備オペレーター、非鉄金属浸出・浄液設備オペレーター、非鉄金属電解設備オペレーター、非鉄金属溶融設備オペレーター、連続鋳造機オペレーター（非鉄金属）</p> <p>非該当例：金属焙焼設備制御・監視員[499-99]、半導体ウェハ一製造設備制御・監視員[502-02]、非鉄金属鋳込造塊工[522-01]、非鉄金属溶融炉工[522-01]、非鉄金属電解工[522-02]、半導体材料精錬工（多結晶シリコンなど）[522-03]</p>
492 鋳造・鍛造設備制御・監視員	492-01 鋳造設備制御・監視員	<p>該当例：鋳物製造設備オペレーター、造型機オペレーター、ダイカスト設備オペレーター</p>

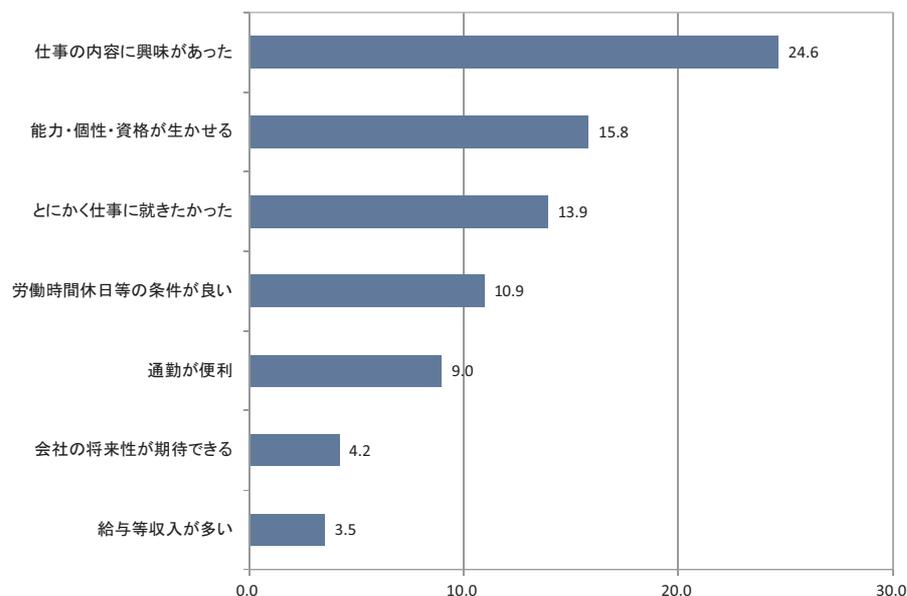
図表1-2 日本標準産業分類（大分類E 製造業の一部）

中分類	09	食料品製造業
	090	管理，補助的経済活動を行う事業所（09 食料品製造業）
	0900	主として管理事務を行う本社等
	0909	その他の管理，補助的経済活動を行う事業所
	091	畜産食料品製造業
	0911	部分肉・冷凍肉製造業
	0912	肉加工品製造業
	0913	処理牛乳・乳飲料製造業
	0914	乳製品製造業（処理牛乳，乳飲料を除く）
	0919	その他の畜産食料品製造業
	092	水産食料品製造業
	0921	水産缶詰・瓶詰製造業
	0922	海藻加工業
	0923	水産練製品製造業
	0924	塩干・塩蔵品製造業
	0925	冷凍水産物製造業
	0926	冷凍水産食品製造業
	0929	その他の水産食料品製造業

職業に関する情報は、前述の通り、まず、就職において必要である。執筆時点で最新の「雇用動向調査」の結果を図表 1-3 に示しているが、これによると現在の勤め先を選んだ理由として、「仕事の内容に興味があった」、「能力・個性・資格が生かせる」が第一位、第二位となっている。「雇用の構造に関する実態調査（転職者実態調査）」（厚生労働省,2006）においても、今の会社を選んだ理由として、「仕事の内容・職種に満足がいくから」、「自分の技術・能力が活かせるから」が第一位、第二位となっている（図表 1-4）。職業情報は個別の求人情報と並んで求職者が求職活動を行う際、まず必要とされる情報といえる。

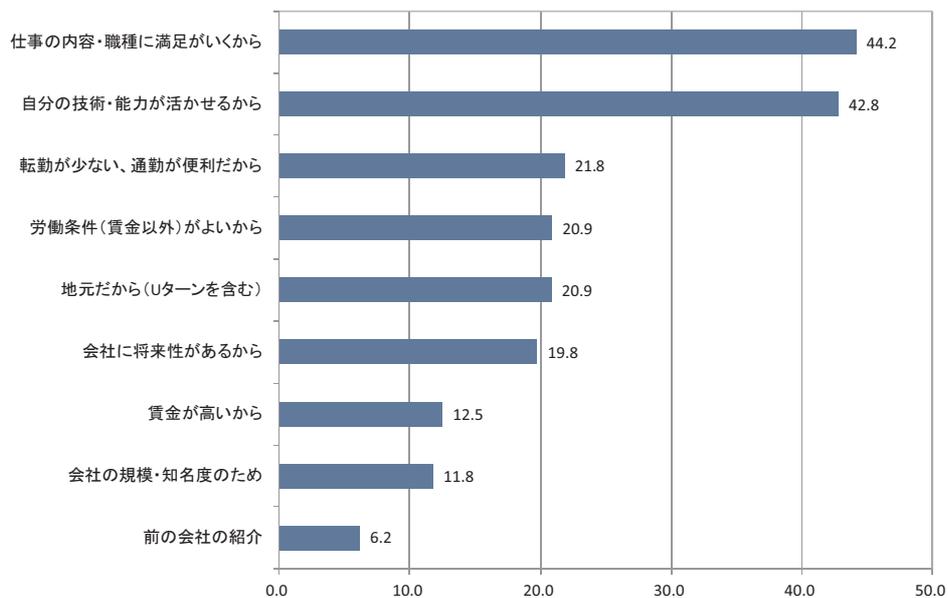
職業情報は膨大な求人仕事を仕事の内容として整理する役割もある。ハローワークインターネットサービスではハローワークに集まる求人をインターネットで検索できるが、最近では、常時、約 80 万件から約 100 万件の求人がある。このような膨大な求人から求職者は仕事の内容、勤務地、給与、労働時間等によって、求人を絞り込むことになるが、先に調査結果を示したように、勤め先の選択において、様々な要件のなかで仕事の内容がまず重要なものとなっている。職種によって、求職者は探している求人を絞り込むことになり、求人側としても職種によって、どのような仕事をしてもらうかを示している。職業分類にはその職業の標準的な仕事内容の解説があり、職業名とその定義、解説によって、求職者、求人者、またその両者を仲介する紹介機関が情報交換しており、職業情報はこれらの間の共通言語の役割を果たしている。

図表1-3 現在の勤め先を選んだ理由（%、厚生労働省「雇用動向調査」2011）



図表1-4 今の会社を選んだ理由（3つまでの複数回答、%）

厚生労働省「雇用の構造に関する実態調査（転職者実態調査）2006」



キャリアコンサルティング、キャリアガイダンスにおいても職業情報は必要である。キャリアコンサルティング、キャリアガイダンスでは、まず、世の中に、またその地域にどのような職業があるかを知った上で、自分のしたいこと、自分の強みや自分の向き不向き等を検討し、自分の興味関心、強みを生かせる職業について具体的に検討するというステップが一般的である。

職業情報は国レベルの人材育成と人材配置のためにも有用であろう。例えば、日本においても震災からの復興に加え、東京五輪にかかわる建設も本格化するなか、建設人材の不足が顕著になっている。このような中では建設業にどのような仕事があり、どのような人材が必要かといった職業情報が政策の基礎として必要になっている。さらに、職業の世界における趨勢的变化が明らかになれば、今後の人材養成において有益な示唆が得られることになる。

法律（「職業安定法」）においても、職業情報に関連し以下のように記述されている（図表 1-5 のアンダーラインの部分）。

図表1-5 職業安定法（昭和二十二年十一月三十日法律第四十一号）

最終改正：平成二四年八月一日法律第五三号

第二章 職業安定機関の行う職業紹介及び職業指導

第一節 通則

（標準職業名等）

第十五条 職業安定主管局長は、職業に関する調査研究の成果等に基づき、職業紹介事業、労働者の募集及び労働者供給事業に共通して使用されるべき標準職業名を定め、職業解説及び職業分類表を作成し、並びにそれらの普及に努めなければならない。

第四節 学生若しくは生徒又は学校卒業者の職業紹介等

（学生生徒等の職業紹介等）

第二十六条 公共職業安定所は、学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）第一条に規定する学校（以下「学校」という。）の学生若しくは生徒又は学校を卒業した者（政令で定める者を除く。以下「学生生徒等」という。）の職業紹介については、学校と協力して、学生生徒等に対し、雇用情報、職業に関する調査研究の成果等を提供し、職業指導を行い、及び公共職業安定所間の連絡により、学生生徒等に対して紹介することが適当と認められるできる限り多くの求人を開拓し、各学生生徒等の能力に適合した職業に斡旋するよう努めなければならない。

○2 公共職業安定所は、学校が学生又は生徒に対して行う職業指導に協力しなければならない。

○3 公共職業安定所は、学生生徒等に対する職業指導を効果的かつ効率的に行うことができるよう、学校その他の関係者と協力して、職業を体験する機会の付与その他の職業の選択についての学生又は生徒の関心と理解を深めるために必要な措置を講ずるものとする。

2. これまでの職業情報の収集

これまで、職業に関する全般的情報は、主として各職業の関係団体等を訪問調査したり、その職業が見られる事業所を訪問し、収集されてきた。このような訪問調査によって、仕事の内容、必要な教育訓練、必要な免許資格、労働条件、等の情報を収集できる。しかし個別の職業の状況全般を把握している団体等が、すべての職業について存在しているとは限らない。このような中、国内で何百万という Web モニターを有する調査会社が出てきたことから、この Web モニターへの調査によって細かく職業を特定し、実際の就業者からデータを収集できるようになった。労働政策研究・研修機構（2012）の中では職業毎の就業者の興味、価値観、スキル、知識、仕事環境等の情報を収集し、また、最近では、職業の類似性等についても Web 調査を行っている。必要な免許資格に関しても、これまでは関係団体等から情報収集してきたが、様々な免許資格が登場し、どのような免許資格がどの程度、各職業に必

要かという情報は関係団体でも把握ができなくなってきたことから、「Web 免許資格調査」を実施し、その成果も労働政策研究・研修機構（2010）としてまとめている。

このように当機構では Web での職業情報収集は行っているところであるが、このような数万人の就業者から各職業の情報を収集することは、世界的にみても他の国では行われていない。

3. 本情報収集の検討

（1）情報収集の方針と設計

今回の情報収集では、Web モニターからこれまで情報収集してこなかった側面の情報収集を行うこととした。具体的には、リアルタイムの現状変化を捉えるものとして、勤続状況、収入、時間等の労働条件、就業・雇用形態の他、仕事での自律性、対人関係、能力発揮、キャリアアップ、いわゆるコンピテンシー面を含めた必要な能力・行動、生活への影響など、これまで就業者から直接情報収集してこなかった側面を含め、職業の現状と変化に関する情報を収集、分析することとした。

厚生労働省編職業分類では細分類レベルで約 500 の職業があるが、この中から主要な職業をカバーするよう、細分類をある程度まとめて、200 職業を選定し、この 200 職業について、各 120 名、計 24,000 名情報収集することとした。細分類をまとめた 200 職業に関して情報収集したが、もとの細分類でも職業が特定でき、細分類レベルでも集計できるようにしている。

（2）Web モニター調査について

これまで職業に関する情報を Web モニターから情報収集してきたが、世論調査等に関する Web モニターに関しては、様々なことが指摘されている。

一つは回答者の偏りである。PC を日ごろから使う者であることから、Web モニター調査では回答者の偏りとして、学歴が高くなり、大卒が多く、専門的技術職が多いとされる（萩原,2009）。

また、回答傾向の偏りも指摘されている。回答傾向として、不安・不満が強く、日本型雇用慣行（長期雇用、年功賃金など）に否定的な共通の傾向がみられるとされ（労働政策研究・研修機構,2005）、満足度や生活満足度に関して不満意識が強いという傾向も指摘されている（松田,2006）。内閣府大臣官房政府広報室（2006）では、訪問面接調査とインターネットモニター調査で回答結果を比較し、生活満足度や生活充実感などの意識設問が、訪問面接調査と大きく異なるとされている。

ただし、回答傾向の偏りに関しては、「意識設問については差が残ったままだが、就業実態に関する設問や、経験や行動に関する設問は、差がない」（萩原,2009）との指摘や、「調査回答者の偏りはインターネットモニターだけの問題ではなく、もはや、従来型調査手法で

も発生していることが明らかになった。また、設問のタイプによっては、調査間で差がないことも検証した。」（萩原,2009）とされている。

Web モニター調査は、職業情報の収集手段としてはこれまでにないものであり、代替できないものであるが、以上のような指摘に注意を払う必要もある。

（3）本調査独自の問題

今回の情報収集では本調査独特の問題もある。それは職業の選択が正しく行われているかという問題である。数百の職業から自分の職業を選択することは中々難しい作業である。また、回答するために、職業のなりすましといった点も懸念される。

そこで今回の調査では冒頭、図表 1-6 のような記述を行い、職業の選択を時間をかけて慎重に行ってもらおうよう促した。また、この表示に続き、職業を選択した次の設問で(図表 1-7)、職業の内容を記述してもらい、その職業についていないと回答できないことから、なりすましや選択ミスがないようにしている。さらに、該当職業ではない者や、すでに必要数が集まっている職業の場合にはそこで終了となるが、全員に途中までは回答してもらうことによって、選択した職業によって門前払いされたという印象がないようにした。

ただし、冒頭、このように慎重に回答を促す注意喚起や、自由記述があることによって、調査の最初の画面を見て止めてしまう者が多くなり、回答率は低下している。この回答率の低下は、調査のお知らせをより多くのモニターに発送することで対応している。

図表1-6 調査冒頭での注意喚起

今回のアンケートは独立行政法人 労働政策研究・研修機構の「職業動向調査（Web 調査）」です。この調査は、職業毎の現場の現状や変化をそれぞれの職業に就いている方にお聞きするものです。職業の現場の現状や変化を把握するための重要な調査です。

最初に、ご自分の職業を選んでいただきます。選んだ職業について、以下、細かくお聞きします。この職業の選択の部分の間違っていると、以下の回答がすべて無効になってしまいますので、職業の選択は時間をかけて、しっかり選択してください。

図表1-7 調査冒頭での職業内容の記述

あなたの現在の職業は ○○○○○○

ご自分の職業は具体的にはどのようなことをしますか。どのようなことをする職業かポイントを簡潔にお書きください。（自由記述）

例）・システム開発でチームをまとめプロジェクトを推進する。

- ・福祉施設で高齢者の介護をする。
- ・書店で書籍や雑誌の配架や販売をする。
- ・パソコンを組み立てる。
- ・大量生産のための金型を製作する。
- ・会社の営業部門を統括する。

(4) 訪問調査等との相互補完

Web 調査は広範に情報収集することができる。しかしながら、Web 調査ではまったく新たな枠組みでの情報収集はできないという限界がある。約 500 の職業細分類レベルで職業を用意し調査しているが、この職業以外に新しい職業があったとしても、その職業に関しては情報収集できない。また、今回は職業の現状や変化といった側面を調べることとし、数多くの設問を用意したが、この設問以外の情報も得ることはできない。例えば、用意した項目以外に変化が見られるものがあっても、その情報を得ることはできない。このような新たな枠組みや新たな観点からの情報、また、Web 調査では収集できないような文脈的にまとまりのある情報や、当該職業、業界に詳しい人の深い知識、経験に基づく詳細な情報などについては、従来のような業界団体、職業団体を訪問するなどの「足で稼ぐ」情報収集が引き続き必要である。

4. 調査結果と今後の課題

今回のデータ収集では職業細分類をある程度集約した 200 職業に対して、その職業の従事者各 120 名を収集することを目標にデータ収集した。200 職業を各 120 名で、24,000 名となるが、全体では 26,586 名収集できた。200 職業のうち 120 名以上収集できたのが 162 職業であり、100 名以上収集が 167 職業、50 名以上収集が 192 職業となっている。最も少ない職業でも 23 名収集できた。200 職業を偏りなく集める点に関しては、目標に沿った収集ができたといえる。

業界や職業に関しては世の中には様々な情報があるが、主観的であったり、断片的であったり、また、事例的な情報であるものが多い。このような情報から業界や職業に対する印象やイメージが形成されているといえる。今回の調査では職業細分類レベルの各職業の就業者から直接、仕事の現状や変化に関して、多様な側面から一定量のデータを収集することで、各職業の状況を把握することができた。また、職業の現状や変化において、どのような要素がありその要素が相互にどのような関係があるかみることができ（主成分分析や因子分析での検討）、職業継続希望や職業満足に対して、各要素がどのように関係しているかみることができた（回帰分析での検討）。生活面への影響についてみるとともに、「仕事の高度化」、「対人処理の重要化」、「成果主義化」のような職業の世界における変化の軸を設定し分析することで一定の知見を得ることもできた。さらに、今回の調査結果に基づいて、職業相談、職業紹介での対応が必要となる転職者を想定し、そのニーズに合致しつつ、長期の準備や実務経験なしでも現実的に転職可能と考えられる職業を抽出し、職業プロフィールを描くという試みも行い、そのようなアプローチの現実的な可能性を示すこともできた。

しかしながら、今回の調査、分析結果の利用、活用については次のような課題がある。他の職業に関する Web 調査はこれまでも行ってきたが、今回の内容については初めての試みである。今回の調査結果はかなり妥当で安定性もあると思われるが、まずは同様の調査

を再度行い、妥当性、信頼性を検証し、収集情報や分析結果をより確実にした上で、さらに種々の視点から検討を行い、職業情報として提供したり、職業の変化に関する知見として活用することが必要であると考えられる。

今後、同様の調査を定期的実施すれば、職業の世界の現状や変化を、趨勢としていち早くとらえることができる可能性もある。定期的な実施を検討しても良いのではないだろうか。

なお、最近、ビッグデータの社会的な活用が話題になることが多い。今回は Web モニターから情報収集したが、膨大な量になっているブログやツイッターでの情報を収集整理し、分析することによって、また、行政が保有する情報を分析することによって、職業世界の現状や変化を捉えることも可能であろう。今後、このような方法での情報収集も検討していく必要がある。

文 献

- 萩原牧子 (2009). インターネットモニター調査はどのように偏っているのか—従来型調査手法に代替する調査手法の模索— Works Review Vol.4
- 松田映二 (2006). 世論調査報告 長野県知事選挙 郵送・インターネット比較調査で世論調査の可能性を探る 朝日総研レポート No.198
- 内閣府 (2009). 世論調査におけるインターネット調査の活用可能性—国民生活に関する意識について 内閣府大臣官房政府広報室
- 労働政策研究・研修機構 (2005). インターネット調査は社会調査に利用できるか—実験調査による検証結果— 労働政策研究報告書 No.17
- 労働政策研究・研修機構 (2010). 我が国における職業に関する資格の分析— Web 免許資格調査から— 労働政策研究報告書 No.121
- 労働政策研究・研修機構 (2012). 職務構造に関する研究—職業の数値解析と職業移動からの検討— 労働政策研究報告書 No.146